

平成 28 年度第 5 回佐倉市行政評価懇話会 要録

日時	平成 29 年 2 月 2 日 (木) 10 時 00 分～12 時 10 分	場所	佐倉市役所 1 号館 3 階会議室
出席者	懇話会委員：宇田川委員、小野委員、坂口委員、武藤委員（委員長）、目等委員（副委員長）、吉村委員（五十音順） オブザーバー：小川氏、菅氏、高橋氏、藤本氏（五十音順）		
	事務局	山辺企画政策部長、向後企画政策課長、和田副主幹、上野副主幹、 緑川副主幹、藤崎主査、上田主査補、池田主任主事	
	事業担当課	（企画政策課）大槻主幹、（産業振興課）鈴木主幹、（子育て支援課） 辻口主査、（危機管理室）根本副主幹、（健康増進課）豊福副主幹、（生涯スポーツ課）遊佐主査	
	その他	傍聴 0 名	
内 容			
<p>◆議事</p> <p>（委員長）本日はお忙しいところご出席いただき、感謝する。今回の第 5 回会議と次回の第 6 回会議では、先に案内したとおり、佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証ということで、産業関係、金融機関、労働者関係、メディア関係の方に出席いただき、意見交換を進めていくのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>（事務局）今回の主旨について補足する。佐倉市では、今年度スタートした第 4 次佐倉市総合計画後期基本計画では、総合戦略に位置づけた事業を重点施策とすることで、総合計画と総合戦略という 2 つの計画を一体化して取り組んでいる。</p> <p>総合戦略の事業については、国から外部機関による評価が求められている。一方で、これまでも総合計画の施策評価を本懇話会で実施いただいている。総合計画と総合戦略の評価を別々の検証機関で行うと異なる評価となる恐れや事務の効率性の問題等がある。このため、既存の評価機関である「佐倉市行政評価懇話会」において、総合戦略の評価もお願ひし、委員より了承を得た。</p> <p>総合戦略については、国の指針により、いわゆる産・官・学・金・労・言及び市民で構成する検証機関により効果を検証することとされているため、4 分野の方に今回と次回の 2 回、オブザーバーとして出席いただくこととなった。</p> <p style="text-align: center;">【佐倉市行政評価懇話会委員及び市職員自己紹介】</p> <p>(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略施策の効果検証について （地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）に係る事業実施結果の効果検証）</p> <p>（委員長）本日の議題は、昨年度実施した国の交付金を活用した 8 事業の効果検証となる。各事業担当課が出席している。まず担当課より資料に基づき事業内容、担当課における効果検証結果などについて説明がある。その後、各委員から意見をお願ひしたい。</p> <p>担当課からの説明に先立ち、事務局から、総合戦略の進捗管理の主旨、評価の視点などについて説明をお願ひする。</p> <p>（事務局）まず、資料 3 について説明したい。</p> <p>1 頁 総合戦略とは、昨年度同時期に策定された「佐倉市人口ビジョン」に掲げられた目標を達成するための計画である。現在の人口 17 万 7 千人が、43 年後の 2060 年には約 10 万人にまで減少すると推定されている。出生率の好転、転入促進転出抑制の施策を展開し、2040 年には約 16 万人、2060 年には約 15 万人の人口を維持すると定めた。その実現のために、総合戦略に 4 つの基本目標を定め、それぞれに数値目標を掲げている。数値目標に</p>			

対する平成 27 年度の実績値を報告する。市内法人数は、初期値として平成 26 年度 3208 法人だったが、平成 31 年度目標値 5%増としているところ、平成 27 年度実績 3245 法人と概ね順調である。次に耕作放棄地面積は、目標が初期値より減少と増加している。2 頁、転入超過数は初期値より減少、観光入込客数は増加、出生率は増加、年少人口は 208 人の減少と歯止めができていない状況となっている。3 頁、今後も佐倉に住み続けたいと応えた人の割合は、初期値を上回ったものの目標達成はできていない。なお、4 つの基本目標毎に具体的施策として 29 施策を定めている。進捗状況は 4 頁以降、別紙シートのとおりである。この具体的施策が次回の議題となる。

続いて、資料 1 について説明する。この 8 事業が今回検証対象となる。これらの事業は平成 27 年度に国から交付金を受けて実施したもので、産・官・学・金・労・言及び市民で構成する検証機関により、効果を検証し改善を図ることが求められている。検証内容については国の様式により報告が義務付けられているため、本懇話会での評価結果を国に報告することになる。

この交付金対象事業の 8 事業は、次回検証対象となる具体的施策の 29 施策の 1 事業となるため、重複する部分もあるが、基本的には交付金対象の 8 事業と 29 具体的施策の議論は分けてほしい。

続いて、本日の議論の視点について資料 2 に沿って説明する。2 頁下部、「事業の評価」の選択肢「①総合戦略の KPI 達成に有効であったか」もしくは「②総合戦略の KPI 達成に有効とは言えない」を、各事業の KPI の達成状況などにより、懇話会として選択いただきたい。「外部有識者からの評価」欄は、箇条書きで意見を記載する。事業の良い点や悪い点、改善策について重点的に議論してほしい。次回会議において、これらの意見を取りまとめ、担当課における「今後の方針」を報告する。なお、懇話会の中で「有効とはいえない」とされた場合でも、交付金を返還するという話にはならないので、忌憚のないご意見をお願いしたい。目的は、今後の改善に向けた意見をもらうことと理解いただきたい。

交付金のタイプは 2 つある。ひとつは「基礎交付」で、国が 1,700 億円（正しくは 1,400 億円で、後日訂正しました。）を人口規模で割った金額を全自治体に交付したものの。もうひとつは、資料 2 の 5 頁以降の「タイプ II」である。後者の「タイプ II」は、平成 28 年度中に総合戦略の策定が求められる中、一足早く、平成 27 年 10 月末までに策定できた自治体に対して交付されたものである。

また、本日、正誤表を追加配布している。詳細については、事業担当課から説明がある。（委員長）次回の議題となる 29 施策の効果検証方法については、今回の議題終了後に皆さんに意見を伺う。今回の議題は、国からの交付金対象事業 8 件の効果検証となる。当該事業が「総合戦略の KPI 達成に有効であったか否か」、当該事業の良い点や悪い点、改善策について意見を述べていきたい。

1 事業について、説明および意見交換で 10 分程度を目安として進めていくので、協力をお願いしたい。それでは、1 番目の事業は最後に検証するものとし、2 番目の事業から順に説明をお願いしたい。

「定住促進事業」 事業担当課：企画政策課

（企画政策課）2 頁について説明したい。交付対象事業の名称は「定住促進事業」、担当課は企画政策課である。事業概要は、市外在住者に対し、住む場所としての佐倉市を PR するため、パンフレット・WEB・動画等のツールを作成し、広告・体験ツアー等とあわせ、一体的なプロモーション活動を展開することである。交付金の種類は基礎交付、実績額は 7,992,000 円、KPI 指標名は定住について具体的な相談に入っている人数で目標値は 10 人、目標年月は平成 28 年 3 月、KPI 設定の考え方・根拠は市外の方で、移住や空き家バンクに関しての具体的な相談を受けた人数を集計した。目標値はシティプロモーション担

当が設置された平成 27 年度以前の定住促進所管課での相談人数を参考に設定した。実績値は 36 人である。取組状況について説明する。一つ目は、配布した定住促進パンフレット「さくらでくらす」を 2 万部作成し京成線東京方面の 42 駅に配架した。二つ目は平成 27 年 11 月に定住促進特設サイト「さくらでくらす」を開設した。三つ目は、移住者インタビューを中心としたムービー「さくらでくらす」を YOUTUBE で公開。これは子育て編 1 分、農業編 1 分、総合編 3 分の合計 3 編がある。四つ目は佐倉市の 15 秒の紹介 CM を JR 京浜東北線車内で平成 27 年 12 月 7 日から 13 日の一週間に放映したこと。五つ目は、佐倉市紹介ポスター B3 版 100 枚をイベントや公共施設用で作成し、B1 版を JR 上野・日暮里・品川駅等で平成 27 年 12 月 7 日から 13 日の一週間に掲示した。六つ目は、一泊二日の暮らし体験ツアー 1 回を実施し、15 名が参加した。事業効果は「地方創生に非常に効果的であった」を選択した。事業効果選択の理由としては KPI が目標値を上回ったこと、定住促進を目的としたプロモーション活動に必要なツールを整えたことにより、今後これらを活用して更なるプロモーション活動を実施していくことが可能となるためである。実績値を踏まえた事業の今後については、「追加等更に発展させる」を選択した。その理由として、パンフレット、WEB、ムービー等、定住促進のために整えたプロモーションツールを活用して、さらなるプロモーション活動を実施していくためである。説明は以上となる。審議をお願いします。

(委員長) ありがとうございます。質問や意見ををお願いします。

まず、このムービーは京浜東北線で行っているのか。

(企画政策課) 京浜東北線の大船～大宮間で 1 日 12 回程度行っている。映像は 3 分間タイプと 1 分間タイプの二通りある。現在、YOUTUBE でも公開しており、再生回数は 2251 回。内容が硬めなわりに再生回数は多い方と考えている。

(吉村委員) 定住促進用パンフレット「さくらでくらす」のデザインがお洒落で素敵である。所属大学の学生とともに暮らし体験ツアーには協力員として関わった。ツアー参加者アンケート結果から、ユーカリの街並みなど都会的な部分と田舎的な部分、城下町であるなど市の多面的な面が良い、魅力的と感想があった。予定していた農業体験は天候不良で中止となったのは残念だった。暮らし体験ツアーの中で実際に移住してきた人と、年齢層別の座談会があればさらによいなど建設的な意見も出ていた。

(委員長) 参加数は何世帯か。また、ツアー参加者の中で実際に転入者はあったか。

(企画政策課) 体験ツアーの参加は 15 人 5 家族であった。ツアー参加者の中から実際に移住した数は把握していないが、前向きに検討したいとのコメントであった。

(宇田川委員) 定住促進用パンフレット「さくらでくらす」を手にした利用者側の評価・反応を検証しているか、もしくは今後どのように検証していくのか。

(企画政策課) 2 万部中 1 万部は配布済みである。京成線 42 駅に配架した分に関しては、すべてなくなったと報告を受けている。3 月の移住時期にまた京成線等に配架していきたい。パンフレットについては、デザイン性の高さが評価を受けている。パンフレットを見て興味を持ったという問い合わせも受けている。

(小野委員) 体験ツアーの参加者はどのような募集方法か。

(企画政策課) 体験ツアーは文化工房という事業者へ委託し、ウェブメディアで全国に配信した。

(坂口委員) この事例は事業概要が類似している 5 頁にある定住促進の事例と一緒に議論できないか。

(事務局) 交付金の種類の順として資料を作成したが、目標や担当課が同じため、委員の皆様にも異論がなければ一括で議論いただきたい。

(委員長) 異論はないようなので 5 頁の事業について担当説明をお願いします。

「定住促進」 事業担当課：企画政策課

(企画政策課) 5 頁の事業を説明する。事業名称は「定住促進」、事業担当課は企画政策課である。事業概要は、都内での定住促進イベント実施である。交付金の種類は基礎交付、実績額は 5437,784 円、KPI 指標名は定住について具体的な相談に入っている人数で、目標値は 10 人、目標年月は平成 28 年 3 月、KPI 設定の考え方・根拠は市外の方で、移住や空き家バンクに関しての具体的な相談を受けた人数を集計した。目標値はシティプロモーション担当が設置された平成 27 年度以前の定住促進所管課での相談人数を参考に設定した。実績値は 36 人であった。取組状況について説明する。一つ目は、東京駅丸の内南口の J P タワー K I T T E 東京シティアイでの定住促進イベントの実施で来場者は 2,900 人であった。定住促進パンフレットを 350 冊配布し、アンケートを 244 件回収した。東京駅八重洲口の移住・交流情報ガーデンでのイベント実施の来場者は 80 人であった。パンフレット配布は 50 冊、アンケートは 35 件回収した。二つ目は、千葉県庁主催の東京都内での移住相談会等に 4 回佐倉市ブースの出展を行い、23 件の相談があった。事業効果は「地方創生に非常に効果的であった」を選択した。その理由としては KPI が目標値を上回ったこと、来場者に直接 PR することができたほか、移住相談やアンケートを通して移住者のニーズや県外からの認知度等を把握できたためである。実績値を踏まえた事業の今後について、「追加等更に発展させる」を選択した。今後の方針の理由として、都心における接触機会を設けることにより、知名度向上・交流人口の増加を図ることが、定住促進のために有効であるからである。説明は以上となる。審議をお願いする。

(委員長) ありがとうございます。質問や意見をお願いする。KPI は事業 2 と同じ指標ということか。

(企画政策課) KPI は同じである。

(坂口委員) 個人的にも佐倉に来てもらうターゲットとして、大きな人口を抱えている東京に向けて PR してはどうかと考えていたので、事業 2 及び事業 5 について非常に良い取組と考える。東京の昼間人口の内、働く層の 820 万人にアピールしてはどうか。流山市は成功例と考える。キャッチコピーを「都心から一番近い森のまち」、「母になるなら流山市」などとして成果をだしており、非常に評価している。

(委員長) 特になければこれまでの意見から、本事業について、人口の東京一極集中が進む中、東京に向けて佐倉市の良さを PR する戦略は効果的と考え、事業効果も有効であったと評価するとしてはいかがか。

(目等委員) 更なる成果を上げるために、パンフレット配架や広告・体験ツアー等のプロモーション効果の検証に努めて、それを戦略に反映する形で進めてほしいという文言も加えていただきたい。

(委員長) それでは、本事業は「総合戦略の KPI 達成に有効であった」とする。事務局は、良い点、悪い点について、次回の評価に向けて整理して意見を取りまとめ、次回、「今後の方針」の報告をお願いする。

「地域資源を活用した観光振興事業」 事業担当課：産業振興課

(産業振興課) 3 頁について説明したい。交付対象事業の名称は「地域資源を活用した観光振興事業」、担当課は産業振興課である。事業概要は、印旛沼周辺の活性化を図ることを目的とし、船の購入、回遊性を高めるための船の運航、その運行開始後における事業の拡充の実現性を調査することである。交付金の種類は基礎交付、実績額は 36,403,880 円、KPI 指標名は印旛沼周辺観光施設来場者数、目標値は平成 26 年度比 5% 増加、目標年月は平成 28 年 3 月、KPI 設定の考え方・根拠は市の主要観光施設入込客数のうち、印旛沼周

辺にある佐倉ふるさと広場、草ぶえの丘、サンセットヒルズの来場者数合計人数である。平成 26 年度実績値は 472,561 人で目標値 496,189 人となる。実績値は 0.4%で微増となっている。取組状況について説明する。一つ目は、印旛沼周辺地域の回遊性向上を図るため、国の交付金を活用し小型船舶を 2 艇購入するとともに、佐倉ふるさと広場対岸にあるサンセットヒルズ下に仮設栈橋を設置し、渡し船の運行実施を可能にさせた。二つ目は小型船舶による舟運について、今後の事業の拡充実現性を検討するため調査をした。事業効果は「地方創生に効果があった」を選択。事業効果の理由としては KPI が目標値を上回らなかったものの、これまで佐倉ふるさと広場と、その他の周辺施設はあまり回遊が図られていなかったが、小型船舶による渡し船の実施をすることにより、その回遊性の向上が今後図られるものとする。また、今後、事業拡充の検討を進めることにより舟運ルートの拡大が図られるものとするためである。実績値を踏まえた事業の今後については、「事業の継続」を選択した。今後の方針の理由として、平成 27 年度は天候の関係により「チューリップフェスタ」の来場者が 2 万人以上落ちたにも関わらず、当該事業による周辺観光地の回遊性が高まり、全体の来場者数が低下することはなかったことから、今後も事業を継続して実施し、更なる集客数の向上を目指していくためである。本日参考資料として 2 点配布した。1 点は観光マップで、もう 1 点は本事業の運行マップである。船の本格有料運行は平成 28 年度から開始した。この船は水深の浅いところでも運航できる特別な仕様となっており、アメリカから輸入したため納品が 11 月となった。そこから運輸局への届出、操縦者一人当たり 50 時間の航行実習研修などを行い、運行開始時期はシーズンオフとなった。寒い時期の湖上は寒さが厳しく、本格運行は平成 28 年度に入ってからである。運行開始前の平成 28 年 3 月に市民 300 人を無料体験試乗会に招待し、アンケートを実施したところ、良かった楽しかったという回答が 95%、今後有料でも乗ってくれるという回答 94%であった。平成 28 年度運行実績について報告する。チューリップフェスタなどのイベント時に実施した乗合船は、出航予定が 11 日間で 44 回だったのに対し、人気があったために増便を行い、実績は 104 回の出航回数となった。毎週土日運行予定のサンセットヒルズまでの渡し運行は、予定 198 回のところ実績 118 回と予定を下回った。原因としては、当日の天候や風速 10m 以上は運行不可となること、台風の影響で流された仮設栈橋の修理に時間がかかった点などがある。貸切運行の予定は 16 回で、実績は 55 回と大幅に上回る結果となった。この大きな要因は、小学校の学習船としての運行である。市内はもとより、船橋市の小学校からぜひ使わせて欲しいと要望があつて対応した。説明は以上となる。審議をお願いする。

(委員長) ありがとうございます。質問や意見をお願いします。

(小野委員) サンセットヒルズ付近に渡し船の船着場があるが、そこからサンセットヒルズに上がる階段が急こう配のため、高齢者の方などには辛いのではないか。

(産業振興課) 平成 27 年度に地方創生とは別の交付金を活用して手すりをつけ、勾配を緩やかにする改修をしたので、いくぶん上りやすくなった。

(坂口委員) 自分も乗船した。ときに印旛沼は「母なる」と冠することがあり、それを体感できた。佐倉の目玉になる良い取組である。ただし、印旛沼内の周遊だけではインパクトが弱いのではないか。周遊している様子が乗っていない人にも目に留まり、こどもたちが乗りたいと思うような仕掛けを作してほしい。

(吉村委員) 毎日、船戸大橋を通るがカメラを構えている人も多い。撮影スポットとなっている。西印旛は佐倉の魅力のひとつである。舟運によってさらに西印旛地域に焦点があたる機会となるのは良いこと。市外、船橋市の子どもたちが学習に来たということも大変評価できる。就航した時期は天候が悪かったこともあるが、取組の方向性は良い。さらにこの取組の魅力を広めるにはどうしたらよいか。

(委員長) 船の屋根が地味なので、カムロちゃんなどのキャラを載せる、船自体をカラフルにするなど、子どもたちや印旛沼周辺の人の目に留まる工夫をしてはいかかがか。

(産業振興課) サンセットヒルズからも船の屋根が見えるため、検討の余地はある。広告をつけてはという提案も受けている。

(委員長) 一艘の購入費はいくらか。

(産業振興課) 1 艘 850 万円である。印旛沼は水深が非常に浅いため、それに対応できる船を捜したところ、水深 40~50 センチ程度でも運行できるアメリカ製の船を輸入することとなった。

(目等委員) 舟運ルートを拡充とあったが、国体イベントで整備した竜神橋付近を通るルートはいかがか。

(産業振興課) 拡充案は 2 つある。ひとつは竜神橋から歴博の御三階の船着場、JR 佐倉駅付近の船着場に渡す計画である。ただし、途中が浅くて運行ができないため、県に浚渫を要望している。もうひとつの計画は、先崎の先から八千代市の道の駅まで拡充するというものである。八千代市も前向きに検討しており、来年度の交付金を利用して整備を予定している。これは、企画政策課が窓口となっているかわまちづくり計画の中で、佐倉市が所有している船を利用して印旛沼周辺地域のネットワークを繋ごうというものである。

(坂口委員) 拡充案も良い計画だが、舟運の取組自体が自分の周りで話題になっていない。多くの目に留まるように派手に広報をしてほしい。佐倉市の取組は、全体的に PR が不足していると感じるので周知に力を入れてほしい。

(宇田川委員) 舟運ルートの拡充のみでなく、ふるさと広場への交通アクセス改善など、訪れた先の整備も連携し、全体で魅力アップさせることが大切ではないか。

(産業振興課) 印旛沼の周辺を活性化させるということで、平成 29 年度にふるさと広場の隣接地に県所有地があり、大型バスの駐車場を整備する予定がある。サンセットヒルズにシャワールームやコミュニティルーム等の整備を平成 28 年度に実施している。また、ライオンズクラブから寄贈のあった「幸せの鐘」をサンセットヒルズに設置し、来訪者に好評を得ている。ふるさと広場に行き、船に乗ってサンセットヒルズに上がり、鐘を鳴らす、逆に、サンセットヒルズにバーベキューに来た人が、船でふるさと広場に行って花を見るといったように、お客様の回遊性を高めていきたい。あわせて、サンセットヒルズ近隣にある草ぶえの丘までの遊歩道等も整備して、全体的な活性化を図っていきたいと考えている。

(宇田川委員) 計画的に良い取組を行っているので、そのことを PR して行って欲しい。

(目等委員) 飯野のルート拡充に関して、竜神橋の龍の口から水が出る設計となっていると聞いている。いまは水が出ていないが、それを再開して船を就航させる時の観光のスポットにできないか検討をして欲しい。

(委員長) それでは、本事業は「総合戦略の KPI 達成に有効であった」とする。事務局は、只今の意見を取りまとめ、次回、「今後の方針」の報告をお願いします。

「観光情報発信強化事業」 事業担当課：産業振興課

(産業振興課) 4 頁について説明したい。交付対象事業の名称は「観光情報発信強化事業」、担当課は産業振興課である。事業概要は、主要な観光拠点である岩名運動公園、美術館、城址公園、ふるさと広場等に公衆無線 LAN、いわゆる Free Wi-Fi の環境を整備し、外国人にも対応したポータルサイトの構築と映像配信を活用した観光情報の提供することである。交付金の種類は基礎交付、実績額は 16,220,120 円、KPI 指標名は屋内・屋外公衆無線 LAN 設置基数で、目標値は 15 基、目標年月は平成 28 年 3 月、KPI 設定の考え方・根拠は 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向け今後増加が予想される外国人観光客へ対応するため、市内の主要観光拠点 13 箇所 15 棟に公衆無線 LAN の整備を実施する。

実績値は13基である。取組状況について説明する。市内の主要観光拠点13箇所、具体的には岩名運動公園、京成佐倉駅にある観光協会、ミレニアムセンター佐倉、サンセットヒルズ、JR観光情報センター、順天堂記念館、旧堀田邸、武家屋敷、草ぶえの丘、おはやし館、市立美術館、ふるさと広場、城址公園に公衆無線LANの整備を実施した。併せて、4カ国5言語、日本語、英語、中国語繁体・簡体、韓国語対応の佐倉市観光ポータルサイトの構築を行った。

13基になった理由は、当初、武家屋敷で公開されている3棟全てにそれぞれLAN整備を行う予定であったが、精査した結果、受付窓口のある1棟のみの整備となったため、結果2基減となった。事業効果は「地方創生に相当程度効果があった」を選択した。事業効果の理由としてはKPIが目標値を上回らなかったものの87%と相当程度達成したためである。これによって、市内外の日本人観光客はもとより、外国人観光客へのサービス向上も図られることから、観光振興及び交流人口の増加に寄与するものと考えられる。実績値を踏まえた事業の今後については、「事業の継続」を選択した。今後の方針の理由として、整備した公衆無線LANに接続すると、多言語による市の観光情報サイトに自動接続する仕組みを構築したことにより、今後更に増加が予想される外国人観光客へのサービス向上が図られるものとする。説明は以上となる。審議をお願いする。

(委員長) ありがとうございます。質問や意見をお願いします。

(委員長) アクセス数は把握しているか。また、有線、無線の別は分かるのか。

(産業振興課) NTTによると有線、無線の解析は難しいとの報告であるが、今後のために分析をお願いしていきたい。利用言語としては、中国語、英語が圧倒的に多いと報告を受けている。

(委員長) 利用状況の分析は可能で必要なことだと思うので実行してほしい。

(小野委員) 無線LANというのはCITY Wi-Fiと同じものか。ふるさと広場には市のスポットとソフトバンクの無線LANスポットがある。ソフトバンク経由で接続すると利用できるLINEやYAHOO検索が市のWi-Fiに接続すると使えなくなるが、そういった制限があるのか。

(産業振興課) 基本的には制限なく利用できると考えているが、複数の無線LANが通っている個所で業者を含め状況を確認していきたい。

(委員長) それでは、本事業は「総合戦略のKPI達成に有効であった」とする。事務局は、只今の意見を取りまとめ、次回、「今後の方針」の報告をお願いする。

「子育て支援企画推進事業」 事業担当課：子育て支援課

(子育て支援課) 6頁について説明したい。交付対象事業の名称は「子育て支援企画推進事業」、担当課は子育て支援課である。事業概要は、子どもと子育て家庭に関する手続きをワンストップで行う「佐倉市こども総合窓口」を整備すること。交付金の種類はタイプII、実績額は4,508,000円で窓口整備のためにカウンター、キッズスペースの備品購入にあてた。KPIはふたつある。指標名Aはこども総合窓口の開設で目標値は1か所、目標年月は平成28年3月、KPI設定の考え方・根拠はこども総合窓口の整備か所数。実績値は1か所である。整備状況については、本日配布した資料に整備前後の写真が掲載されているので参考してほしい。KPIの指標名Bは窓口サービスに関するアンケートで満足度を示す子育て世帯の数、目標値は50%以上、目標年月は平成28年3月、KPI設定の考え方・根拠はアンケートにおいて、窓口サービスに対する満足度を調査し、「満足」と回答した割合とした。実績値は調査中だが、来庁者からは「こどもを安心して遊ばせることができるようになった」「窓口が非常に明るくなった」など好意的な声が寄せられている。担当としての立場で感じているリニューアルによる変化は、以前は隅の狭いスペースにあっ

たキッズスペースが広くなり、施設中央に位置することで待ち時間をこどもたちが楽しそうに過ごすようになったこと、また、来庁している保護者の方がこどもたちの楽しそうな様子を見て安心することができ、手続きに時間がかかる場合も余裕を持って過ごしていただけになったことである。取組状況について説明する。これまで2号館1階には子育て支援課と児童青少年課という2つの課があり、手続き内容によって申請者が移動するスタイルだったが、子どもと子育てに関する手続きがワンストップで行うことができる「こども総合窓口」を整備した。事業効果は「地方創生に非常に効果的であった」を選択。事業効果の理由としてはKPI こども総合窓口の開設が目標値を達成したため。「こども総合窓口」を整備することで、来庁者の利便性が向上した。また、ベビーカーも入れることができるローカウンターの設置や安全で快適なキッズスペースを配置したことで、来庁者から快適に利用できるようになったという声をいただいているためである。実績値を踏まえた事業の今後について、「事業の継続」を選択した。今後の方針の理由として、こども総合窓口を整備したことにより、利用者の利便性が向上した。今後は、窓口サービスに対する市民満足度の向上をめざし、ソフト面での改善を図っていく予定である。具体的には、現在、別棟に教育員会があるため、学校関係の手続きは保護者の方が移動をしなければいけないところを、保護者が移動することなく、ワンストップ窓口で受け付けることができるよう、教育委員会との連携を検討中である。説明は以上となる。審議をお願いします。

(委員長) ありがとうございます。質問や意見をお願いします。

(吉村委員) 実際に見て窓口に行ってみて、明るい感じがした。文字も丸文字で柔らかい雰囲気が出た。ローテーブルも広くベビーカーにも配慮している感じがする。キッズスペースのおもちゃはどういったものを置いているのか。

(子育て支援課) 乗り物、絵本、ボールを入れて落下するような遊具など幅のある年齢層に対応できるおもちゃを置いてある。

(吉村委員) 業者と提携して最新のおもちゃが体験できるような試みを検討してはいいか。

(委員長) 来庁者は増加しているか。

(子育て支援課) 改装前に来庁者数の調査を行っていないので比較はできないが、今年度から数値を取り始め、現在、集計中である。

(委員長) KIPの設定が設置1回となっているが、それとは別にKPIとして来庁者数を設定し、今後、来庁者をカウントしたほうが良いと考える。

(小野委員) 受付テーブルに座るとキッズスペースが背後になる形であるが、相談中の親が子どもを見守ることができるような配置はできないか。

(子育て支援課) 構造的な兼ね合いから現状となっているが、キッズスペースに隣接した待合スペースから見守れる形としたことで、夫婦で来庁した場合はどちらか1人が窓口相談している間、もう1人が見守るといった体制をとることができるようになっている。その他の場合も、子どもが危険のないように、場合によっては職員が近くで見守るような体制を取っている。

(宇田川委員) 教育委員会との連携による窓口ワンストップ化の進捗について伺いたい。

(子育て支援課) 担当レベルで打ち合わせ中である。相談内容によっては、窓口から距離のある保管された書類の確認が必要な場合があるなどといった実務の面で障害となる点を整理し、調整を行っている。

(委員長) ワンストップ化の実現に必要であれば、遠隔地とのやり取りを可能とするテレビ会議の導入など、システムの構築も視野に入れてほしい。窓口ワンストップ化はぜひ実現してほしい。

(目等委員) 子育て世代に向けた窓口ワンストップサービスは子育てのしやすさに繋がる

良い取組である。佐倉で子育てがしやすいと情報発信に力を入れてほしい。

(委員長) それでは、本事業は「総合戦略の KPI 達成に有効であった」とする。事務局は、只今の意見を取りまとめ、次回、「今後の方針」の報告をお願いします。

「防災機材等管理事業」 事業担当課：危機管理室

(危機管理室) 資料 7 頁、交付対象事業の名称は「防災機材等管理事業」、担当課は危機管理室である。事業概要は、災害時に助産師が助産に使用する器材を整備。交付金の種類はタイプ II、実績額は 1,369,000 円、KPI の指標名 A は助産師災害活動用必要物品の充足率、目標値は 100%、目標年月は平成 28 年 3 月、KPI 設定の考え方・根拠は災害時に助産師が使用する資機材を備蓄しておくことで、災害時の助産への安心感が高まる。実績値は 100%。KPI の指標名 B は安心して子どもを産み育てられるまちと感じる者の割合、目標値は 50%以上、目標年月は平成 30 年 3 月、KPI 設定の考え方・根拠は災害時の助産の安心感が高まることで、安心して子どもを産むことが出来るまちづくりの一助となる。実績値は 48.6%である。これは平成 28 年度市民意識調査の数値であり、目標値には達していないが、目標年月までには達成できるように、本事業の周知に努めたい。取組状況について説明する。災害時に助産師が使用する資機材として、聴診器 3 台、ベビーラック 10 台、乳児用血圧測定器 3 個などを購入した。事業効果は「地方創生に非常に効果的であった」を選択。事業効果の理由としては KPI である助産師災害活動用必要物品の充足率が目標値を達成し、災害時に助産師が使用する資機材を備蓄しておくことで、災害時の出産に関する安心感が高まったためである。実績値を踏まえた事業の今後について、「予定通り事業終了」を選択した。今後の方針の理由として、万一の災害に備え、購入した資機材を適正に管理していくためである。説明は以上となる。審議をお願いします。

(委員長) ありがとうございます。質問や意見をお願いします。

KPI の調査方法について、毎年行っている市民意識調査の項目にこのような指標があるということか。市民意識調査の項目とすれば、対象が一般的で広いということになる。災害時に備えることは大変大切なことだが、本事業は子育て中の人という特定の人に対する取組である。子育てに関わりのない人も多く、平常時に、そういった人に対して妊産婦に対する災害時の備えを安心と捉えるかどうかを問うのは適切な指標値かどうか。自分の立場で考えた場合、回答が難しい。KPI の数値として信憑性のある有効な数値を求めるために、対象者を妊婦や一年以内に出産した世帯に絞るなど調査の仕方を検討してほしい。

(危機管理室) 検討していきたい。

(宇田川委員) 災害時に備えた備品の整備とのことだが、市内の各健康管理センターに、助産師の職員は平常時から配置されているのか。また備品は持ち運びできるものか。

(危機管理室) 備品はすべて移動が可能である。また、市の職員に助産師はいないが、千葉県の助産師会と協定を締結し、災害時には助産師会から派遣されてくる予定で、派遣された助産師が利用する想定を備品を整備した。印旛郡内で 7~8 名の助産師がいる。県内では何十人という単位でいると聞いている。

(委員長) 近隣市へ備品の貸し出しを行うのか。

(危機管理室) 市内での利用を想定している。

(委員長) それでは、本事業は「総合戦略の KPI 達成に有効であった」とする。事務局は、只今のご意見を取りまとめ、次回、「今後の方針」の報告をお願いします。

「スポーツ施設整備事業」 事業担当課：生涯スポーツ課

(生涯スポーツ課) 資料 8 頁、交付対象事業の名称は「スポーツ施設整備事業」、担当課は生涯スポーツ課である。事業概要は、岩名運動公園球技場におけるブラインドサッカー

の整備。交付金の種類はタイプⅡ、実績額は3,579,216円、KPI指標名Aは試合が行える環境整備、目標値は1面、目標年月は平成28年3月、KPI設定の考え方・根拠はブラインドサッカーフェンス及びゴールを購入し、試合や体験ができる環境整備を目標値に設定した。実績値は1面。KPI指標名Bはブラインドサッカーに係るイベントへの参加者数、目標値は100人、目標年月は平成29年3月、KPI設定の考え方・根拠は日本ブラインドサッカー協会による体験教室の1回開催人数を設定した。実績値は1面である。取組状況について説明する。一つ目は、ブラインドサッカーフェンス及びゴールを購入し、試合が行える環境を整備した。二つ目はブラインドサッカー体験教室を1回開催した。三つ目は、さくらスポーツフェスティバルにてブラインドサッカー体験コーナーを設けた。事業効果は「地方創生に非常に効果的であった」を選択した。事業効果の理由としてはKPIが目標値を上回ったこと、設備を整えることにより、体験学習会やブラインドサッカーチームの練習会場として利用され、障害者スポーツの理解促進、新たな交流人口の増加につながったためである。実績値を踏まえた事業の今後について、「事業の継続」を選択した。今後の方針の理由として、パラリンピック種目であるブラインドサッカーを通して、種目の紹介や体験教室等を開催し、障害者スポーツの理解を深め、共生社会の実現を目指すためである。説明は以上となる。審議をお願いする。

(委員長) ありがとうございます。質問や意見をお願いする。

体験教室の実施は1回だけか。KPI実績値の192人はその際の数値か。

(生涯スポーツ課) 体験教室は、内郷小学校4～6年137名に対して授業の一環として行った。実績値には、体育の日に実施するスポーツフェスティバルで体験した55名もカウントしている。

(委員長) KPI設定の説明に2回開催したと修正記載をお願いしたい。

(吉村委員) 四街道にある県立の盲学校との関わりはどうか。

(生涯スポーツ課) 四街道にある盲学校に勤務する日本代表 GK・竹中先生から佐倉市にブラインドサッカーを紹介してもらった経緯がある。体験会の開催でも協力してもらっている。

(委員長) 県内にブラインドサッカーのための施設や機材が整備されている自治体はどの程度あるのか。

(生涯スポーツ課) 千葉県では佐倉市だけである。競技を行うためには人口芝のコートがあり、視覚障害のスポーツになるため、周囲が静かな環境が整っていることが必要である。

(小野委員) 備品の持ち運びは可能か。体育館などでの開催は可能か。

(宇田川委員) 小学校の校庭で行えるのか。

(生涯スポーツ課) 練習や体験教室であれば体育館やグラウンド等でも可能である。競技となるとかなりぶつかり合い等もあるため、安全面から人口芝でないとは実施できない。

(目等委員) 岩名競技場にはブラインドサッカー専用のコートがあるのか。

(生涯スポーツ課) それ専用という訳ではなく、利用の際に備品を配して使う形となっている。

(委員長) 1チーム何名か。

(生涯スポーツ課) 5名で1チームとなる。フットサルのコートサイズで、そこを壁で囲うイメージ。通常のサッカーコートで3面程度確保できるサイズである。

(委員長) それでは、本事業は「総合戦略のKPI達成に有効であった」とする。事務局は、只今の意見を取りまとめ、次回、「今後の方針」の報告をお願いする。

「佐倉市総合戦略策定事業」 事業担当課：企画政策課

(企画政策課) 1頁について説明したい。交付対象事業の名称は「佐倉市総合戦略策定事

業」、担当課は企画政策課である。事業概要は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のための基礎調査を行うとともに、人口ビジョン及び総合戦略を策定した。交付金の種類は基礎交付、実績額は8,964,000円、KPI設定は国の指針に基づき、設定していない。取組状況について説明する。平成27年10月に「佐倉市人口ビジョン」及び「佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。10月までに策定できたため、追加で交付金が獲得できた。また、第4次佐倉市総合計画後期基本計画の策定期間と同時期に「佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定を行ったため、重点施策として位置づけ、取組を推進することができている。事業効果は「地方創生に相当程度効果的であった」を選択した。事業効果の理由としてはKPIの設定は、国の指針に基づき無いが、長期的な人口ビジョンを提示するとともに、従来からの総合計画の重点施策として「佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を位置づけた佐倉市の取組は、地方創生に相当程度効果があったと考えるためである。実績値を踏まえた事業の今後について、「追加等更に発展させる」を選択した。今後の方針の理由として、佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置づけられた施策について、毎年度、効果を検証し、改善を図るPDCAサイクルの確立を図る必要があるためである。説明は以上となる。審議をお願いします。

(委員長) ありがとうございます。質問や意見をお願いします。

この事業は総合戦略を策定できたということだが、KPI設定がない中で効果を判断するのは難しいと感じる。

(企画政策課) これまでに説明のあった他の事業の成果は、総合戦略の策定があったからこそという点を勘案し、総合戦略の達成に有効であったかの視点で判断いただきたい。

(目等委員) 総合計画と総合戦略を一体化して取り組めたことが効果的であったと考えて良いのではないかと。また、早い時期に策定できたことは評価できるのではないかと。

(企画政策課) 総合計画と並行して総合戦略を策定できたことで一体化することができ、すぐに総合戦略に取り組めたことは効果的であったと考えている。また、国の示した早期策定となる平成27年10月までに策定できたことで、タイプⅡの交付金を獲得することができた。

(委員長) それでは、本事業は「総合戦略のKPI達成に有効であった」とする。事務局は、只今の意見を取りまとめ、次回、「今後の方針」の報告をお願いします。

(事務局) 本日いただいた意見を国に提出する様式に取りまとめ、次回の懇話会において承認後に国へ提出することとなる。

◆その他

(1) 第6回会議の進め方について（基本目標毎の具体的施策 29施策）

(委員長) 本日の議題は終了した。次回まで時間があまりないが、事務局は取りまとめをよろしくお願いします。

今回は、総合戦略の具体的な29施策についての効果検証となる。進め方について決めていきたいと思う。時間に制約があるため、事務局から29施策から対象施策を絞った検証の提案がある。事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料4について説明する。基本目標毎の具体的施策である29施策について取りまとめた概要版となる。総合戦略では、4つの基本目標ごとに数値目標を設定している。その数値目標を達成するために特に効果的と思われる施策を選び、議題案の欄に印をつけている。この印をつけた7施策を次回の会議議題として提案したい。具体的には次のとおりである。

・「1-1 企業誘致の推進」は「市内法人数」の目標達成に有効ではないか

- ・「1-7 担い手の育成支援」は「耕作放棄地面積」の目標達成に有効ではないか
- ・「2-2 観光客誘致のための取組みの実施」は「観光入込客数」の目標達成に有効ではないか
- ・「2-6 転入促進や転出抑制につながる住宅施策の実施」は「転入超過数」の目標達成に有効ではないか
- ・「3-2 出産や子育てに対する支援」は「合計特殊出生率」の目標達成に有効ではないか
- ・「3-3 保育園待機児童数の解消」は「年少人口」の目標達成に有効ではないか
- ・「4-5 地域にあった交通手段の確保」は「アンケートにおいて今後も佐倉に住み続けたいと答えた人の割合」の目標達成に有効ではないか

(委員長) 基本的には事務局から提案があった施策を中心に検証し、それ以外の施策についても意見があれば時間を設けて述べていくということではいかがか。

(坂口委員) 「1-5 6次産業化」についても関心が高まっている分野と思われるので議題に加えていただきたい。先日、日本遺産となった北総4都市のシンポジウムに参加し、その中で比較してみると成田、佐原に比べ、佐倉市は開発が遅れていると感じている。佐倉市の行政にはもう一歩踏み込んだ形で取り組んでほしい。成田では参道の整備を20年かけて完成させ、佐原も小野川を20年かけて整備した。地方創生による定住・交流促進のために、6次産業化を絡めて魅力が創出できるような取組ができないかという点について議論をしたい。成田、佐原の事例は市民主体であり、これらは行政にのみ任せる問題ではなく、市民が立ち上がらなくてはならないと思うが、まず行政に道筋をつくってほしい。

(委員長) 事務局は時間的な制約としていかがか。

(事務局) 時間が限られているため、基本目標毎で1~2つを設定したところであるが、対象施策を増やすことも可能である。

(宇田川委員) 事務局提案などの施策を中心に、その他の施策については、それぞれの委員が思うところを意見として述べるというスタイルで良いのではないか。

(委員長) それでは、本日決まった施策を中心に、次回、効果検証を行い、それ以外の施策についても意見を述べていただく時間をとっていきたい。皆さんお忙しいとは思いますが、対象施策は目を通していただきたい。事務局からの連絡事項をお願いします。

(2) 事務連絡

(事務局) 追加意見や質問があれば後日、事務局へ連絡をお願いしたい。議事録については、なるべく早く作成し、確認をお願いしたいと思っている。次回は2月7日(火)午前10時00分からとなる。本日はありがとうございました。

(委員長) それでは、これをもって本日の議事は終了とする。

(12時10分 終了)